

芸術学科合格体験記

2018年度入学 工藤沙貴

私は中学の頃から美術と理科の授業が好きでした。大学は無難に理系へ進むつもりでしたが、なかなか納得のできる進路が見つからず悩んでいました。そんなとき友人と行った展覧会で、科学と芸術を融合させた作品に出会い、刺激を受けました。アーティストを目指せば美術も理科も両方学べるかもしれない…！そう考えた私は美大の実技系に挑戦しましたが、結果は惨敗。進路変更を決めました。

けれどやはり、理系の進路はどれもしっくりきませんでした。他に自分に合う美術との関わり方はないだろうか。そうして見つけたのが、藝大芸術学科でした。制作の向き不向きに関わらず、美術に関わっていきける道。それについて実技の授業があり、現在進行形で活躍する先生方に制作者の視点を教わることができるのは、とても魅力的でした。また、藝大には科学技術×芸術によって文化を育もうというCOI拠点があります。そこに、アーティストの道も理系の道も選ばなかった自分が、将来、科学と芸術との交差点に立てる可能性を見て、藝大受験を決めたのでした。

そこから1年間、主に家で勉強しながら、芸術学科の対策を行う塾に通いました。センター試験では、国・英・歴に加え、好きだった理科基礎科目も受験しました。昔から文章を書くことが苦手だったので、二次の小論文には大変苦労しましたが、なんとか合格が決まりました。

入学してみると、周りは皆それぞれ違う関心を持っていて、多才な人ばかりでした。日々沢山の刺激を受け、もっと精進しなければと思う毎日です。大学生生活は、自分次第で決まりますが、藝大の環境なら、授業や学生交流、イベントを通じて自分の世界を広げることでもできるでしょう。美術に少しでも興味がある人は、充実した生活が送れる学校だと思います。



研修旅行(1年次)



基礎造形実技/日本画(2年次)



藝祭 神輿パレード(1年次)

芸術学科生の一日

2017年度入学 角野 文

1・2年次には午前中に実技の授業があり、実技の学科の先生がたの技と感性に触れることができます。実際に制作することを通して、作品を生み出す喜びと苦労を自分自身の体で実感する非常に良い機会です。中でも私の記憶に強く残っているのは、1年生の後期に受けた写真の授業です。スマートフォンで気軽に写真を撮り削除できる時代にあって、フィルムカメラで撮った写真を一枚一枚丁寧に手間隙かけて現像するという行為は、作品とじっくり向き合う貴重な体験となりました。薬品と反応した印画紙に、少しずつ画像が浮かび上がってきた時の感動は今でも忘れられません。

そして午後には、美学・美術史や語学の講義を受けます。高校までの授業よりもはるかに専門的な内容を短時間で吸収するのは大変ですが、新しいことを学ぶ日々は刺激的で、充実していました。こうして積極的に様々な分野の知識を蓄えることで、より広い視野を持って自分の研究対象と向き合えるようになるのではないかと思います。さらに、教職や学芸員課程の授業もある中で、芸祭実行委員として上野駅のギャラリーでの展示を担当するなど、慌ただしくもやりがいのある毎日を送っていました。

3年生になると、特定のテーマに基づいて研究発表や討論を行うゼミ形式の授業を中心に据え、卒業論文に向けて自らのスキルアップを図ることが求められます。授業の合間の空き時間も各々で過ごし方を決め、有意義なものにしていかなければなりません。研究発表の準備のため図書館や研究室で調べものをする時間が長くなりますが、美術館やギャラリーで実物を鑑賞する時間も大切にしたいと思い、関東近郊の展示情報には常にアンテナを張っておくようにしています。

芸術学科を卒業して

2012年度入学 辻角香与

私にとって芸術学科は、自分の興味関心をとことん突き詰めることができた場所です。

私はもともと美術や歴史が好きだったので、芸術学科を選ぶことも自然なことでした。しかし具体的にどの国・時代のどの分野を学びたいとかいう考えはまったくなく、そもそも芸術という限られた学術だけでいいのか、その中から本当に卒業研究などを決めることはできるのかと、悩むこともありました。けれども、芸術と一言で言っても、藝大では芸術に関するあらゆる分野の講義や、絵画・彫刻などの実技実習などを受け、幅広く奥深い世界を知ることができます。また、古美研や、貴重な文化財に直接触れて調査を行うなど、藝大だからこそできる経験も数多くあります。迷った時には、指導教員と心ゆくまで話し合えますし、志をともにする仲間や先輩たちがいることはとても心強いことです。結局、私は院まで進み、自分の興味のあるテーマを追求することができました。もちろん学業だけでなく、藝祭など藝大ならではの行事を含めた学生生活も、とても充実した思い出深いものです。

私は現在、東京の一般企業に勤めています。美術に関する業種ではありませんが、多様な業務を行います。大学の研究とは関連のない分野を扱う場合でも、藝大での経験は自分の糧となっています。なぜなら、大学でも職場でも、さまざまな経験によって自分の興味や得意なことを明らかにし、自分の決めたテーマや課題を実現するために考えて行動するということには、通じるものがあるからです。そこで積み重ねられた発見や成功は、大きな自信となっています。

芸術学科に進む皆さんには、自分の可能性を信じて歩み、この大学・学科でかけがえのない経験を積み重ね、それぞれの誇りとなることを祈っています。

東京藝術大学 美術学部 芸術学科 入試案内・学科紹介

AESTHETICS
JAPANESE AND ASIAN ART HISTORY
WESTERN ART HISTORY
HISTORY OF CRAFTS

<https://www.geidai.ac.jp/labs/geigaku/>

大学入学共通テスト（外国語を含む3教科・3科目、計600点）、1日目の個別学力検査（外国語・地理歴史、計400点）、2日目の実技検査等（小論文または鉛筆素描（石膏像）、200点）の合計点（1200点）に、出願書類（調査書等）の審査を加えて総合的に合否を判定します。合格者は個別学力検査2日目の選択科目（小論文または鉛筆素描）ごとに判定し、原則としてそれぞれの受験者数に応じて合格者数を比例配分します。なお、詳細については本学入試情報サイトの、本年度の『入学者選抜要項』、および本年11月頃公開予定の『東京藝術大学学生募集要項（美術学部・一般入試）』をご参照ください。

東京藝術大学入試情報サイト <http://admissions.geidai.ac.jp>

大学入学共通テスト 外国語を含む 3教科3科目 計600点	個別学力検査 (1日目) 外国語・地理歴史 計400点	出願書類 調査書等 の審査
	実技検査等 (2日目) 小論文または鉛筆素描 計200点	
合計1200点 総合的に判定		

1日目 外国語・地理歴史

1日目の個別学力検査では、入学後の授業において必要となる外国語と地理歴史の基礎学力をみます。

外国語は、入学願書提出時に英語・ドイツ語・フランス語の3科目から1科目を選択します。原典講読などの授業に対応できる語学能力をみることに主眼を置きます。過去5年間は、各科目とも芸術に関連する150語前後の原文を提示し、日本語訳を作成する問題を2題ずつ出題しています。

地理歴史は、試験開始後に世界史・日本史の2科目から1科目を選択します。美術史系の授業の前提となる歴史の基礎知識を問うことに主眼を置きます。個々の歴史事項に関する正確な理解とともに、複数の歴史事象を結びつけて合理的な論述を展開する能力や、高い視点から歴史の流れを大きくとらえる能力をあわせて問います。両科目とも過去5年間は、記述式問題1題（解答用紙はA4 罫紙1枚）と語句説明3問（4問から3問を選択、各問とも解答用紙はA4 罫紙1枚）を組み合わせる等の形式で出題しています。

2日目 小論文または鉛筆素描

2日目の実技検査等では、芸術学を学んでいく上で要求されるより専門的な能力をみます。受験科目は、入学願書提出時に小論文・鉛筆素描（石膏像）の2科目から1科目を選択します。

小論文は、問題の意図を正確に読み取る理解力や、論旨を組み立てる論理性、説得的な文章を書くための日本語の表現能力をみることに主眼を置きます。このような能力は、入学後にレポートや卒業論文を書く上でも重要になります。過去5年間は、美術作品の図版を見て記述を行うという問題や、芸術作品のあり方について原理的に問う問題が出されています。最近の出題例は、次のとおりです（問題文のうち、注意事項などは省略しています）。

2017（H29）年度
ポピュラー文化と芸術の関係について論じなさい。

2018（H30）年度
美術作品における「金（きん）」のもつ意味や機能について論じなさい。

2019（H31）年度
美術と鏡について自由に論じなさい。

2020（R2）年度
今まで見た芸術のなかで、衝撃を受けた作品について、具体的に説明したうえで、自由に論じなさい。印刷や映像媒体を通じて見たものでもかまわない。

2021（R3）年度
図版の絵を見て、そこにどのような意味や物語が表されているのか、自由に想像して論じなさい（作品に関する知識は問いません）。
図版の絵：ロレンツォ・ロット《純潔の寓意》1505年頃、ワシントン、ナショナル・ギャラリー

鉛筆素描は、対象を正確に観察して素描する基礎実技の能力を問うことに主眼を置きます。3時間という限られた時間の中で、石膏像のかたちや空間を的確にとらえ、再現的に表現する実技能力をみます。最近の出題例は、次のとおりです。

2017（H29）年度：青年マルス
2018（H30）年度：あばたのヴィーナス
2019（H31）年度：パルテノンのヴィーナス
2020（R2）年度：パルテノンのヴィーナス
2021（R3）年度：青年マルス



入学後の学びについて—— 美学研究室 日本・東洋美術史研究室 西洋美術史研究室 工芸史研究室

藝大の芸術学科のカリキュラムの大きな特色の一つは、実技を藝大各科の教員から学ぶことにあります。

学部の1、2年次には、週3回午前中に、版画、油画、写真、日本画、彫刻の授業が、それぞれの科の教員の指導のもと、アトリエでおこなわれます。実際に手を動かし、何かを作り出してみることで、美術作品を見つける眼差しが次第に変化していくことがつくことでしょう。本や図版から得られる情報とはことなる、対象への視点と感性が養われることは間違いありません。

一方講義や演習では、専門的な知識を身につけるとともに、自らの考察力、発想力を伸ばします。ほとんどの授業が大学院生も含めた全学年の混合授業であるのも芸術学科の特徴で、入学すると同時に、1年次から専門的な授業に触れることができます。課題を与えられて発表する形式の演習（いわゆるゼミ）の授業では、上級生や大学院生の発表を参考に、配布資料やプレゼンテーションの手法などを実践的に学びます。

美術史や美学を学ぶ上で重要な外国語も、低学年のうちに集中して習得することが望まれます。英語の他に、フランス語・ドイツ語・イタリア語を上級まで学ぶことができるほか、各国語の授業が設定されており、音声トレーニングセンターなどの活用もできます。

2年次には、古美術研究旅行（通称「古美研」）がおこなわれます。藝大の「古美研」は、明治38年頃、東京美術学校の時代にはじまった伝統ある見学授業で、美術学部全学科の必修科目です。奈良、京都に2週間、教員とともに合宿し、一般非公開の国宝や重要文化財の見学を含めて近畿地方の古社寺や美術館をめぐる。

3年次には卒業論文の執筆題目と指導教員を決め、4年次にかけて執筆します。1年以上をかけてしっかりと取り組み、4年間の集大成としての研究論文を作成します。

芸術学科では教員1人あたりの学生数が8.9人（学部定員／教員数）と、大変充実した少人数教育が実現されています。美学と美術史の分野に関してこれだけの数の教員を揃えている大学は他に見られません。

美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史と、それぞれの専門になった9人の専任教員が皆さんの入学を待っています。



演習授業風景



研究調査風景



古美術研究旅行（2年次）

卒業生の進路

卒業後の進路は多岐にわたり、芸術学科卒業生は様々な分野で活躍しています。

なかでも、美術館や博物館の学芸員として働く卒業生は数多く、その活躍ぶりはよく知られています。芸術学科への入学を希望する受験生の皆さんにも、将来、学芸員になりたいと思っている方が多いのではないのでしょうか。芸術学科では、学芸員になるための基礎をしっかりと学び、規定の単位を取得することによってその資格を得ることができます。

学芸員の採用に際しては、多くの場合、大学院を修了していることが条件となっています。そのため、学部での勉学を終えた後、さらに大学院に進んで専門性を深める場合も多く、芸術学科を卒業する20名のうち、毎年半数近くが大学院美術研究科に進学しています。

ギャラリーや出版社、新聞記者、美術雑誌のジャーナリストなど、美術に関係する仕事に多くの卒業生が就いています。新聞社やテレビ局などの文化事業部と呼ばれる部署は、展覧会の企画や運営を行うことから人気があります。なかには経験を積んで、世界的に有名なギャラリストとして新人作家を発掘したり、ビエンナーレのような国際美術展を組織するキュレーターも生まれています。

またアーティストとして国際的に活躍する卒業生もあります。藝大では学生時代を制作者に囲まれて過ごす中で、芸術的な刺激にもたいへん恵まれます。

大学院に進んで修士論文や博士論文の執筆を目指し、学問をさらに深めることもいいでしょう。研究者として活躍する卒業生も数多く、本学のみならず、日本中の大学で芸術学科を卒業した教員が教鞭を執っています。

主な就職先一覧

【学部卒業生】	【大学院修了者】
NHK	群馬県立館林美術館
岡崎市役所	国立新美術館
国立天文台	国立西洋美術館
コム・デ・ギャルソン	サントリー美術館
小山登美夫ギャラリー	静岡県立美術館
サンゲツ	島根県立美術館
小学館	東京国立博物館
JR 東日本ステーションリテイリング	東京都美術館
電通	長崎県美術館
東京国際フォーラム	奈良国立博物館
東京都庁	ポーラ美術館
東宝	横浜美術館
特許庁	クリスティーズジャパン
凸版印刷	朝日新聞社
早川書房	新潮社
フィルムアート社	美術出版社
ベネッセホールディングス	大阪大学
ポプラ社	学習院女子大学
横浜市芸術文化振興財団	東京大学
読売広告社 など	立教大学 など